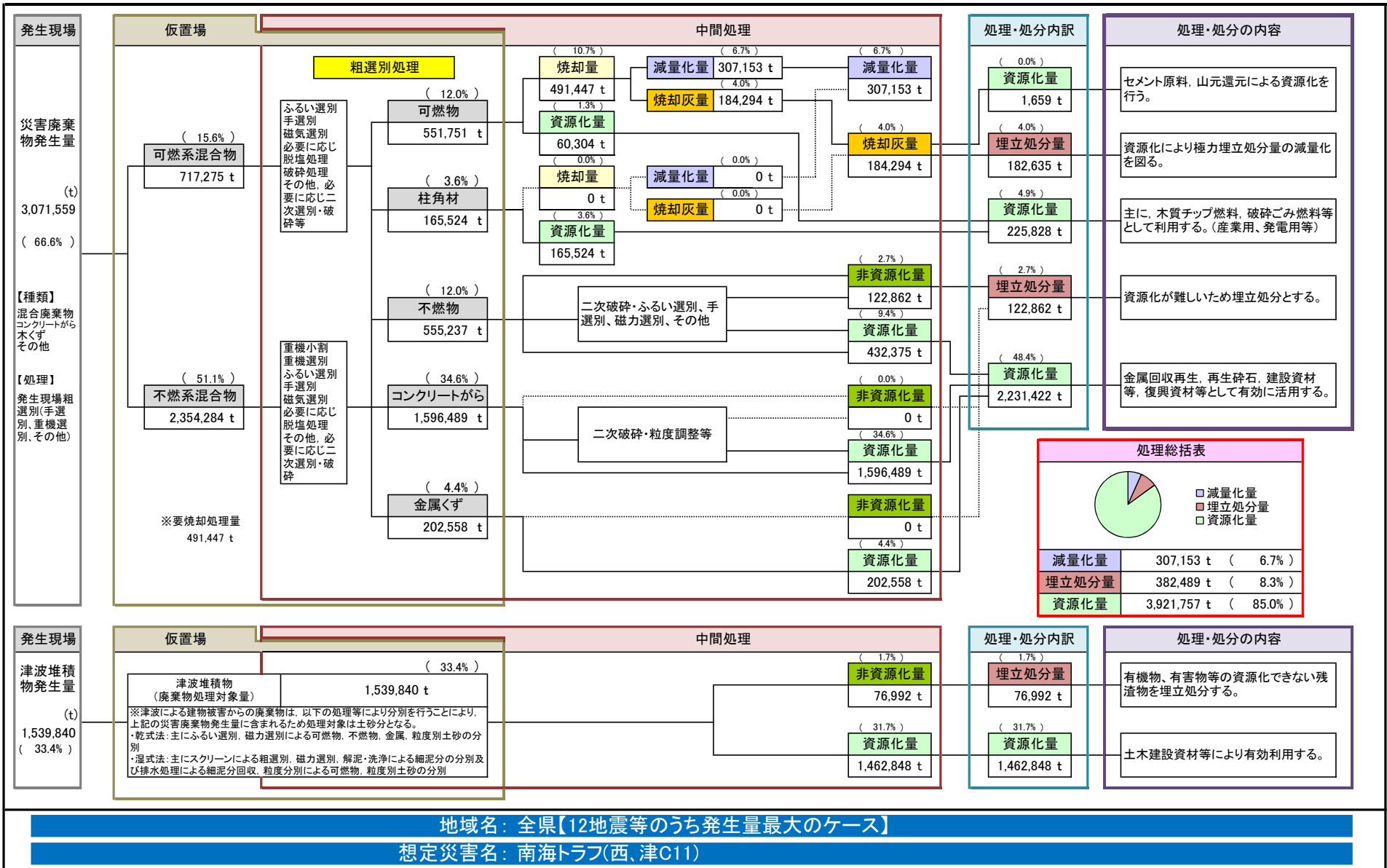


【資料 14】災害廃棄物処理フロー（全県：災害  
廃棄物発生量が最大及び最小のケース，地域  
別：災害廃棄物発生量が最大のケース）

---

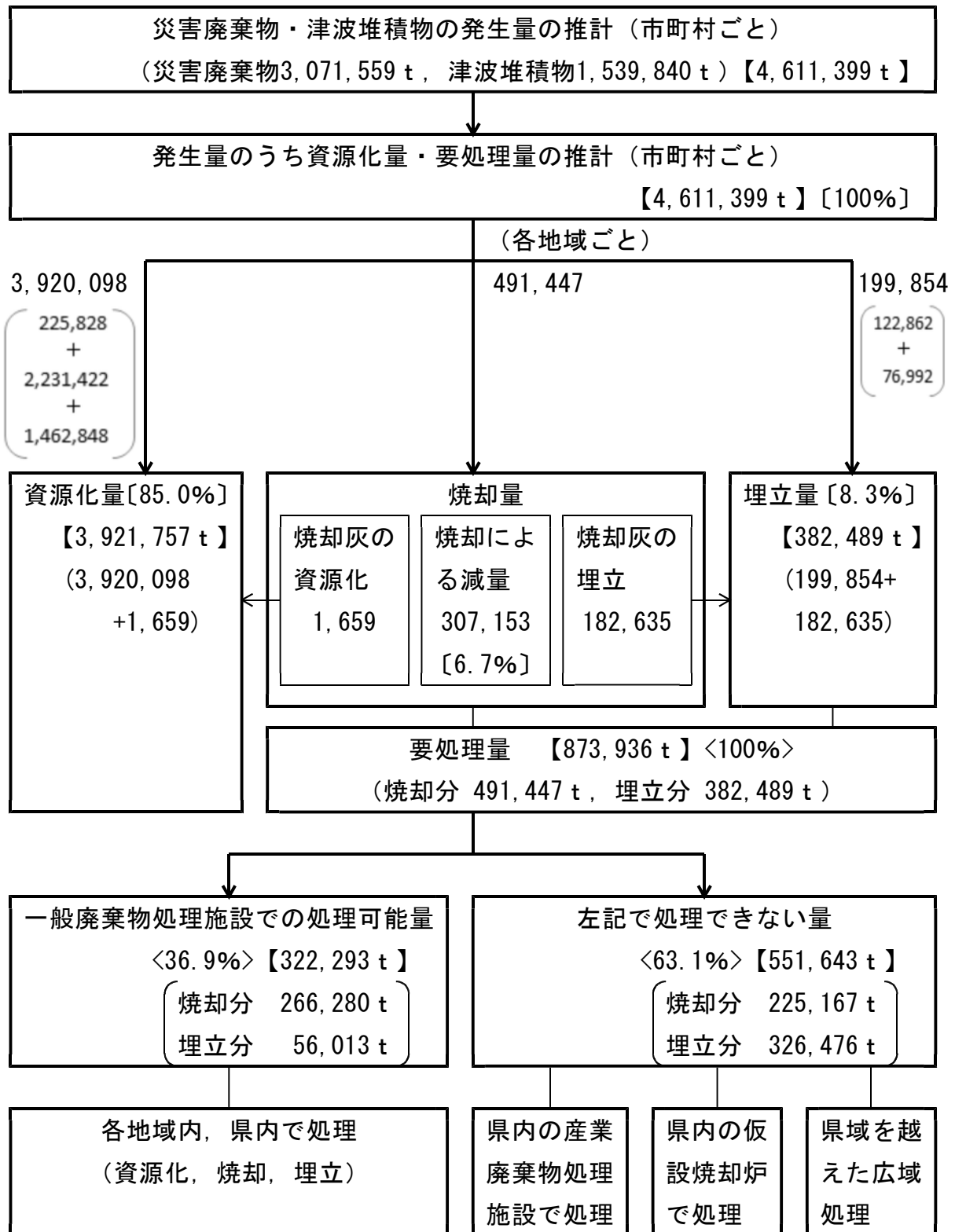
注1：（ ）内の構成割合（％）は，四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

# 災害廃棄物処理フロー



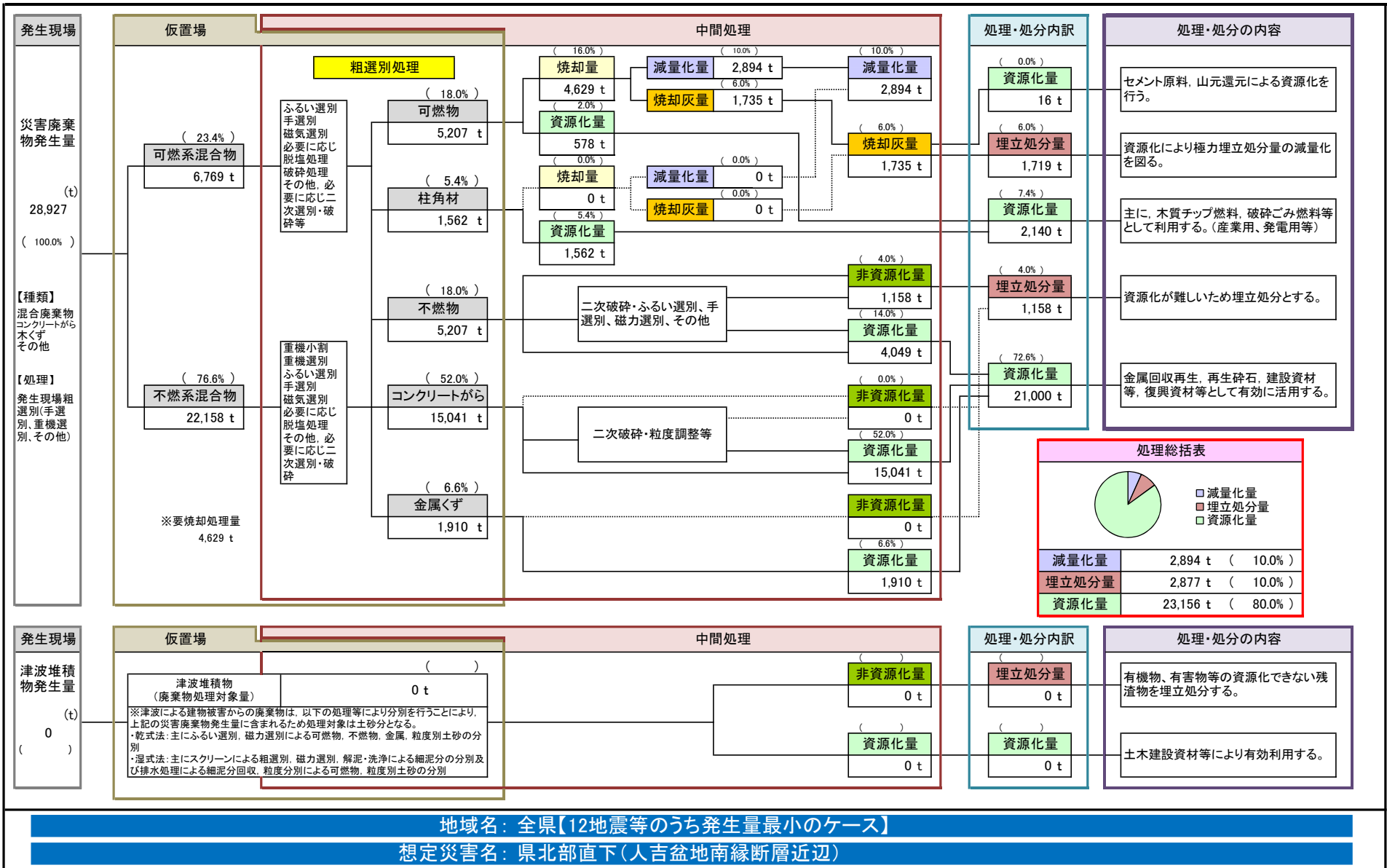
【災害廃棄物発生量等の推計——12地震等のうち発生量最大のケース】

<南海トラフ地震（地震動：西側ケース，津波：CASE11）> （数値は県計）



※ 災害廃棄物発生量は，総務省「平成27年度固定資産の価格等の概要調書（都道府県別表）」を用いて推計した。一般廃棄物処理施設での処理可能量は，環境省「平成27年度一般廃棄物処理実態調査」を用いて推計した（高位シナリオのケース，処理期間3年）。

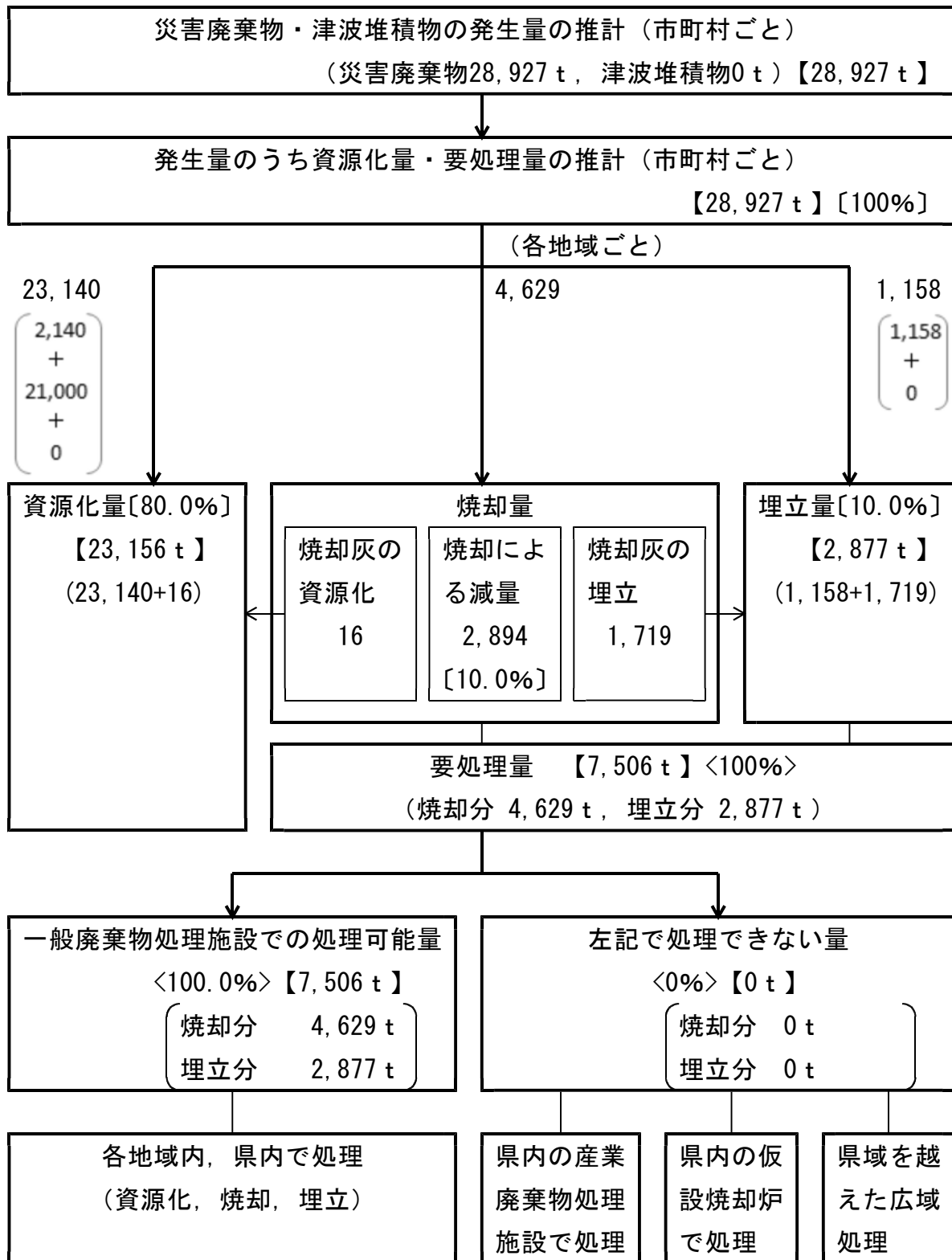
# 災害廃棄物処理フロー



地域名： 全県【12地震等のうち発生量最小のケース】  
 想定災害名： 県北部直下(人吉盆地南縁断層近辺)

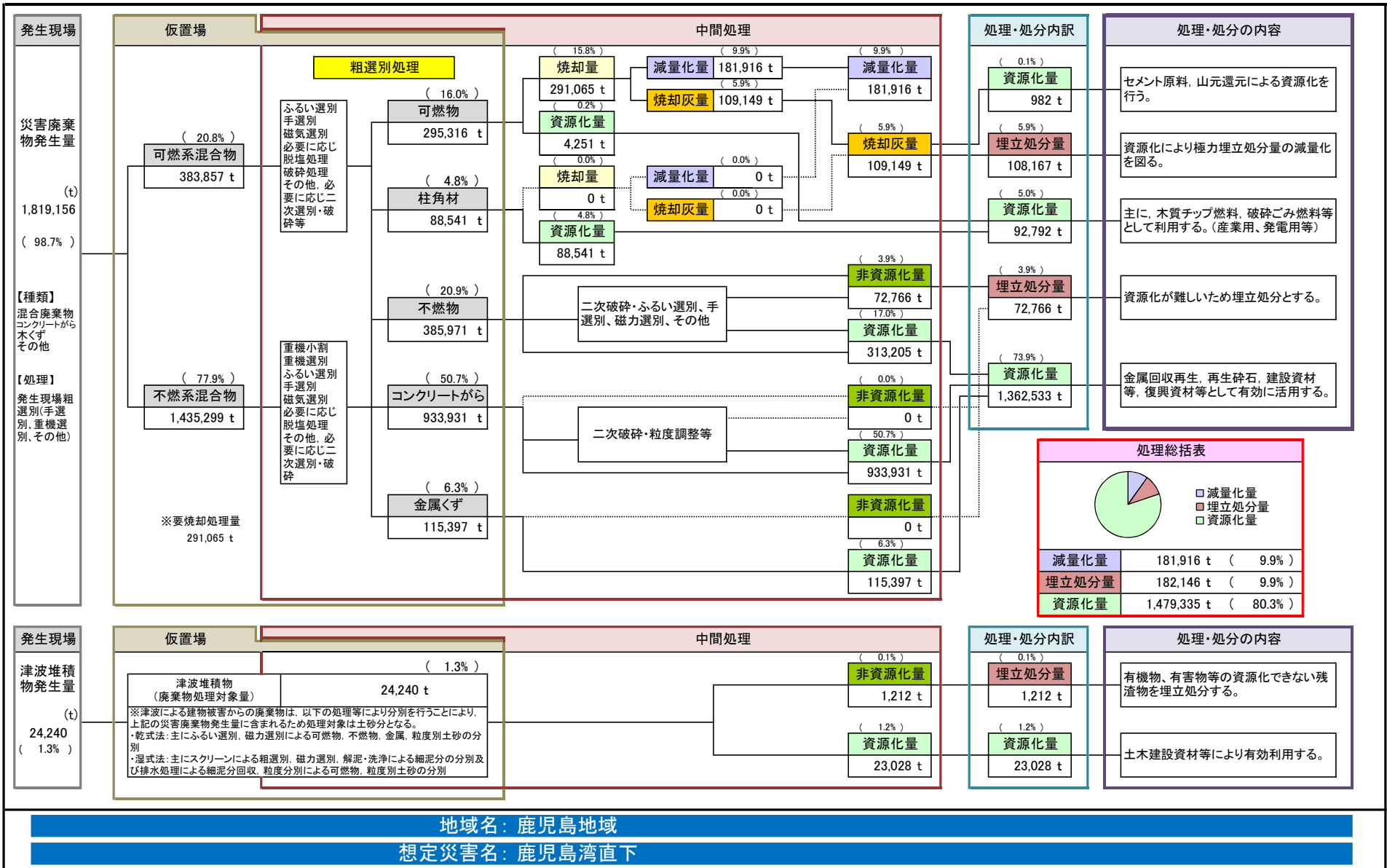
【災害廃棄物発生量等の推計——12地震等のうち発生量最小のケース】

< 県北部直下地震（人吉盆地南縁断層近辺） > （数値は県計）

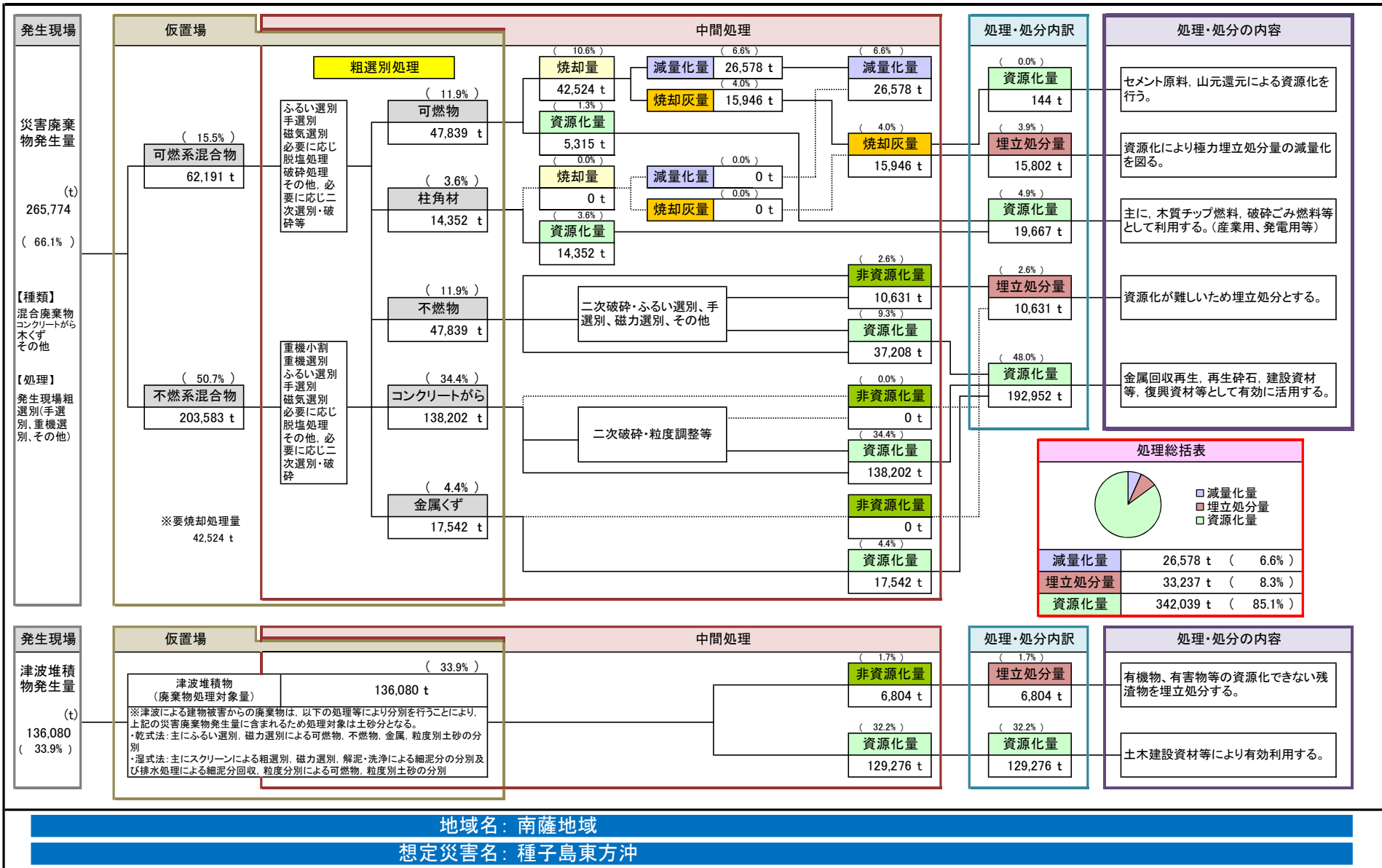


※ 災害廃棄物発生量は，総務省「平成27年度固定資産の価格等の概要調書（都道府県別表）」を用いて推計した。一般廃棄物処理施設での処理可能量は，環境省「平成27年度一般廃棄物処理実態調査」を用いて推計した（高位シナリオのケース，処理期間3年）。

# 災害廃棄物処理フロー



# 災害廃棄物処理フロー



災害廃棄物発生量 (t) 265,774 (66.1%)

【種類】混合廃棄物、コンクリートがら、木くず、その他

【処理】発生現場粗選別(手選別、重機選別、その他)

可燃系混合物 (15.5%) 62,191 t

不燃系混合物 (50.7%) 203,583 t

※要焼却処理量 42,524 t

**粗選別処理**

ふるい選別、手選別、磁気選別、必要に応じ脱塩処理、破碎処理、その他、必要に応じ二次選別・破碎等

可燃物 (11.9%) 47,839 t

柱角材 (3.6%) 14,352 t

不燃物 (11.9%) 47,839 t

コンクリートがら (34.4%) 138,202 t

金属くず (4.4%) 17,542 t

重機小割、重機選別、ふるい選別、手選別、磁気選別、必要に応じ脱塩処理、その他、必要に応じ二次選別・破碎

**中間処理**

焼却量 (10.6%) 42,524 t

資源化量 (1.3%) 5,315 t

焼却量 (0.0%) 0 t

資源化量 (3.6%) 14,352 t

二次破碎・ふるい選別、手選別、磁気選別、その他

二次破碎・粒度調整等

減量化量 (6.6%) 26,578 t

焼却灰量 (4.0%) 15,946 t

減量化量 (0.0%) 0 t

焼却灰量 (0.0%) 0 t

減量化量 (6.6%) 26,578 t

焼却灰量 (4.0%) 15,946 t

非資源化量 (2.6%) 10,631 t

資源化量 (9.3%) 37,208 t

非資源化量 (0.0%) 0 t

資源化量 (34.4%) 138,202 t

非資源化量 (4.4%) 0 t

資源化量 (4.4%) 17,542 t

**処理・処分内訳**

資源化量 (0.0%) 144 t

埋立処分量 (3.9%) 15,802 t

資源化量 (4.9%) 19,667 t

埋立処分量 (2.6%) 10,631 t

資源化量 (48.0%) 192,952 t

**処理・処分の内容**

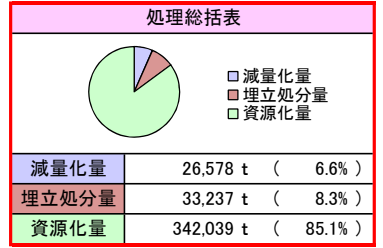
セメント原料、山元還元による資源化を行う。

資源化により極力埋立処分量の減量化を図る。

主に、木質チップ燃料、破碎ごみ燃料等として利用する。(産業用、発電用等)

資源化が難しいため埋立処分とする。

金属回収再生、再生砕石、建設資材等、復興資材等として有効に活用する。



津波堆積物発生量 (t) 136,080 (33.9%)

津波堆積物 (廃棄物処理対象量) 136,080 t

※津波による建物被害からの廃棄物は、以下の処理等により分別を行うことにより、上記の災害廃棄物発生量に含まれるため処理対象は土砂分となる。

・乾式法：主にふるい選別、磁気選別による可燃物、不燃物、金属、粒度別土砂の分別

・湿式法：主にスクリーンによる粗選別、磁力選別、解泥・洗浄による細泥分の分別及び排水処理による細泥分回収、粒度分別による可燃物、粒度別土砂の分別

**中間処理**

非資源化量 (1.7%) 6,804 t

資源化量 (32.2%) 129,276 t

**処理・処分内訳**

埋立処分量 (1.7%) 6,804 t

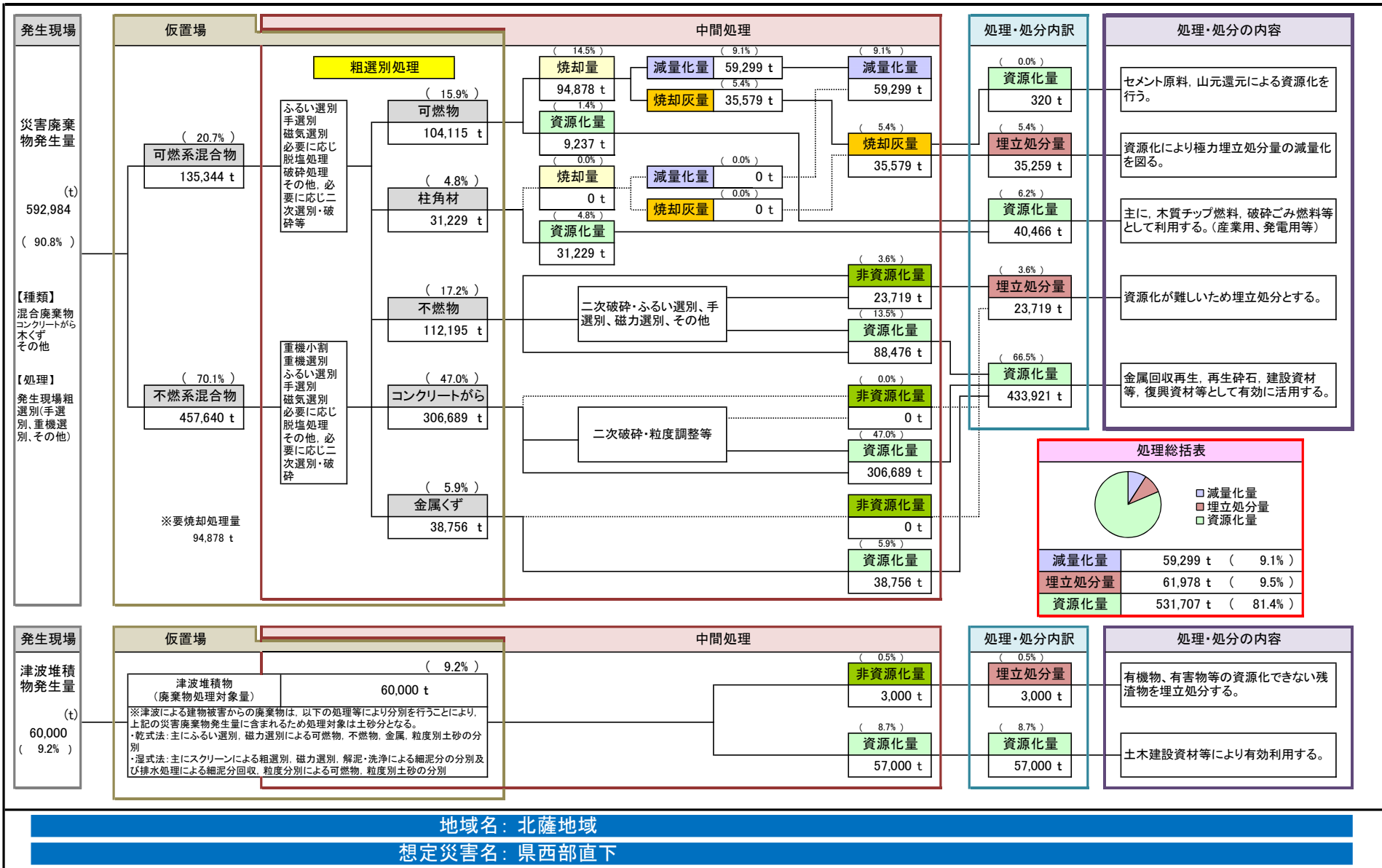
資源化量 (32.2%) 129,276 t

**処理・処分の内容**

有機物、有害物等の資源化できない残渣物を埋立処分する。

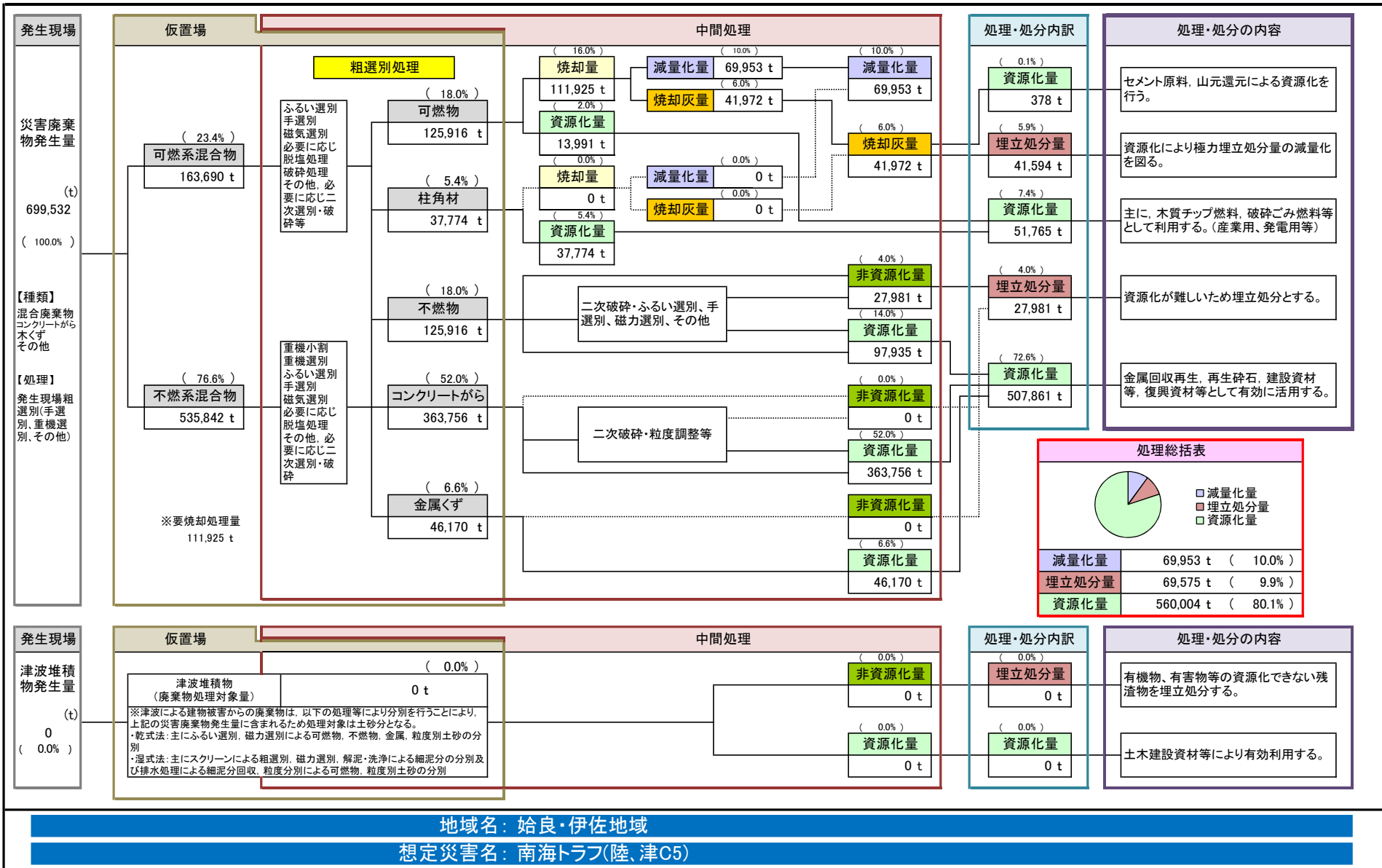
土木建設資材等により有効利用する。

# 災害廃棄物処理フロー

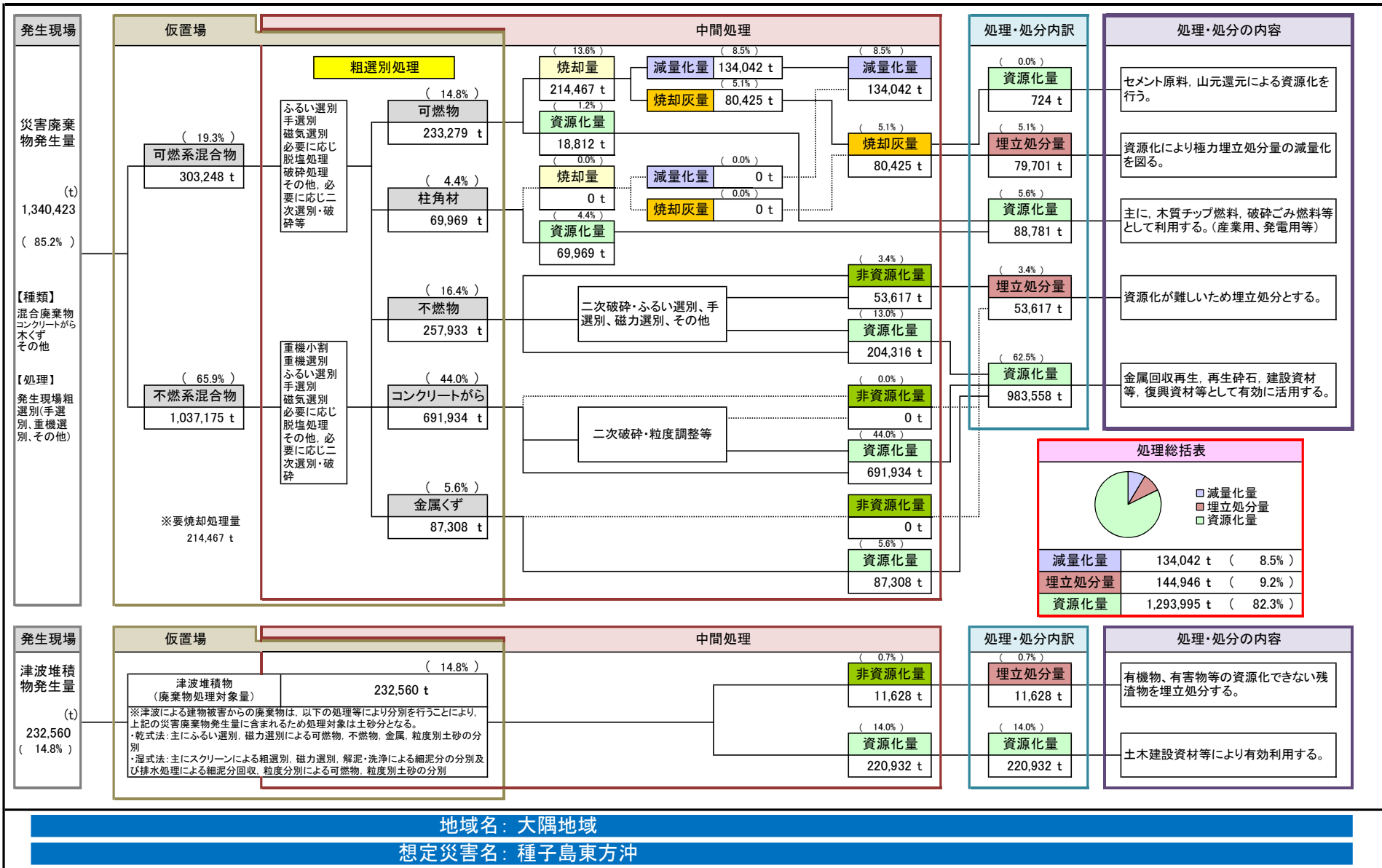




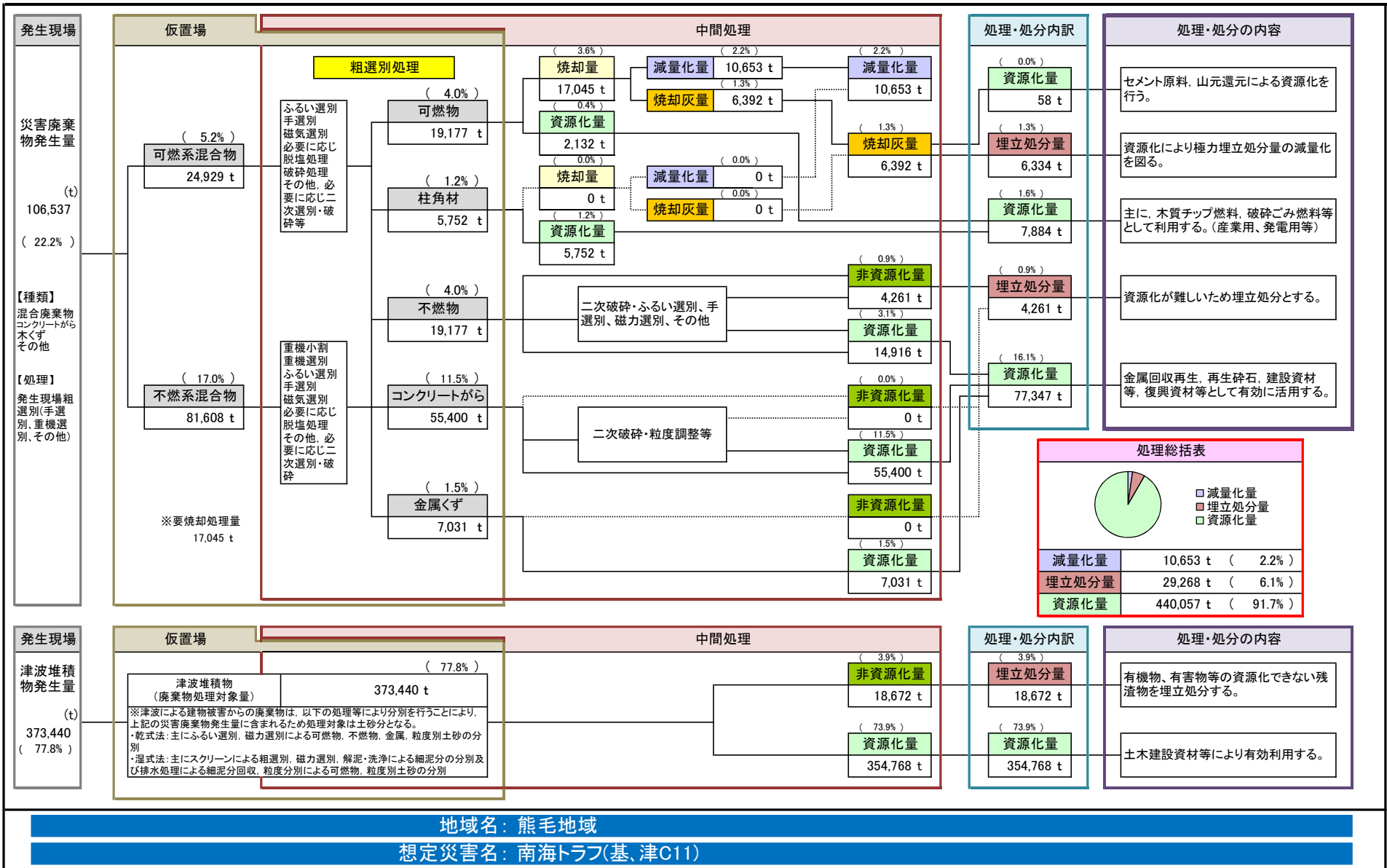
# 災害廃棄物処理フロー



# 災害廃棄物処理フロー



# 災害廃棄物処理フロー



# 災害廃棄物処理フロー

